

コード No. 28137

**Anti-Human  
RIG-I (CTD) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 50 µg

はじめに : RIG-I (retinoic acid inducible gene-1)は、RNA helicase domain を持つ細胞質ウイルスセンサーの一種であり、ウイルス由来の二重鎖 RNA を認識していると考えられています。RIG-I は通常は不活性型として細胞質に存在しますが、ウイルス複製の結果生じる二重鎖RNAを認識し、活性型になると考えられています。活性型 RIG-I では、それまで立体障害によって覆い隠されていた CARD (caspase recruitment domain)と呼ばれるシグナル伝達を行う領域が露出され、この CARD がミトコンドリアに発現する IPS-1 と相互作用することで下流のシグナル伝達を活性化し、最終的に IFN 遺伝子の活性化を誘導すると考えられています。このように、RIG-I はウイルス感染によるシグナル伝達に重要な役割を果たしていると考えられます。

本抗体はヒト RIG-I の CTD (C terminal domain) 領域を認識し、ウイルス感染細胞において誘導形成される avSGs (antiviral stress granules) に局在する RIG-I を検出することができます。

免疫抗原 : Human RIG-I の CTD ドメイン合成ペプチド (SQEKPKPVPDKENKLLC)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % Na<sub>2</sub>S<sub>2</sub>O<sub>3</sub> 含有 PBS 0.5 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 0.5 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫細胞染色 1.0 µg/mL にて使用可能

使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 1.0 µg/mL にて使用可能

特異性 : マウスと交差

参考文献 : 1. Onomoto K, Jogi M, Yoo JS, Narita R, Morimoto S, Takemura A, Sambhara S, Kawaguchi A, Osari S, Nagata K, Matsumiya T, Namiki H, Yoneyama M, Fujita T. Critical role of an antiviral stress granule containing RIG-I and PKR in viral detection and innate immunity. PLoS One. 2012;7(8):e43031.

コード No. 28137

**Anti-Human  
RIG-I (CTD) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 5 µg

はじめに : RIG-I (retinoic acid inducible gene-I)は、RNA helicase domain を持つ細胞質ウイルスセンサーの一種であり、ウイルス由来の二重鎖 RNA を認識していると考えられています。RIG-I は通常は不活性型として細胞質に存在しますが、ウイルス複製の結果生じる二重鎖RNAを認識し、活性型になると考えられています。活性型RIG-Iでは、それまで立体障害によって覆い隠されていた CARD (caspase recruitment domain)と呼ばれるシグナル伝達を行う領域が露出され、このCARDがミトコンドリアに発現するIPS-1と相互作用することで下流のシグナル伝達を活性化し、最終的にIFN遺伝子の活性化を誘導すると考えられています。このように、RIG-Iはウイルス感染によるシグナル伝達に重要な役割を果たしていると考えられます。

本抗体はヒトRIG-IのCTD (C terminal domain) 領域を認識し、ウイルス感染細胞において誘導形成されるavSGs (antiviral stress granules) に局在するRIG-Iを検出することができます。

免疫抗原 : Human RIG-I の CTD ドメイン合成ペプチド (SQEKPKPVPDKENKLLC)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN<sub>3</sub> 含有 PBS 50 µL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 50 µL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : 免疫細胞染色 1.0 µg/mL にて使用可能

使用方法 : ウェスタン・ブロッティング 1.0 µg/mL にて使用可能

特異性 : マウスと交差

参考文献 : 1. Onomoto K, Jogi M, Yoo JS, Narita R, Morimoto S, Takemura A, Sambhara S, Kawaguchi A, Osari S, Nagata K, Matsumiya T, Namiki H, Yoneyama M, Fujita T. Critical role of an antiviral stress granule containing RIG-I and PKR in viral detection and innate immunity. PLoS One. 2012;7(8):e43031.